

草創期

昭和7年～17年

◎昭和7年

第18回全国中等学校野球選手権秋田県大会
(12校参加)に初出場

1回戦 能代中6-13角館中
(能代中)伊藤・瀬川一渡辺

◎昭和8年

1回戦 能代中10-17角館中
(能代中)相沢・智田一守富

◎昭和9年

1回戦 能代中13-3横手中
(能代中)相沢一長谷川
2回戦 能代中10-16秋田師範
(能代中)相沢一長谷川

◎昭和10年

朝日新聞の「中等野球前奏曲、新陣営を覗く」
から

能代中一「臥薪嘗膽10年」— 全校挙げて火の闘志

能代中学校野球部も今年で創立10年記念式を前に闘志が燃えて居る。殊に県北の強豪大館中チームと過去10年間幾度かの試合に暫く苦杯を嘗めているので全く文字通り臥薪嘗膽の涙ぐましい努力を続け、今春より平川コーチを招いて血の出る様な練習を続けて居る。殊に小松新任校長は運動着1枚で生徒に混じって運動している態度は自然校内が従来と全く異なった新気分となり、職員も生徒も県下大会に大なる期待をかけ校一致の声援は能中ナインに恵まれたるところだ。

1回戦 能代中17-2角館中
2回戦 能代中4-14秋田中
(能代中)相沢一柳谷

想い出

第3期(昭7卒) 五十嵐 貞一

私は能中3期昭和7年卒業で、75年前のことを思い出して書きます。早口からも汽車通学ができるとのことで、新しく出来た能代中学校に入学しました。早朝の一番列車で鷹巣より通学の人達と一緒にでしたが、冬期間は大変でした。

地元の早口小学校5年生の時、元秋田県知事の小畠勇二郎氏が代用教員として私達を受け持ってくれました。野球大好きの先生は、体操の時間に必ず野球の練習をさせ6年生と試合をしたものです。

当時能代中学校では、4年生までは課外活動でバレー・バスケット・陸上等毎回異なる部に出ることが義務づけられておりましたが、私は3年の時、五十嵐は野球部だけに入るようと言われ、その年から5年生までのメンバーが揃い正式な野球部ができたと思います。私はピッチャー・ショート・サード等いろいろやりました。対外試合は能代工業と定期的にやり工業に勝った時応援団の生徒達が校歌を歌ってくれ涙が出ました。当時から甲子園選抜大会があり秋田中学等と試合で負けては涙、勝って涙のなつかしい思い出があります。

5年生の時は主将をやり頑張りました。夏休みに早稲田大学の選手が指導に来てくれました。その選手の兄さんが当校の軍事訓練の教官をしておりました。その早稲田の選手が「五十嵐は筋が良いから早稲田にこないか」と誘ってくれました。行きたいと思ったがその年父が42歳で子供8人を残し急病で亡くなりました。長男の私は、卒業後早口郵便局に就職しながら能代実業団に席をお

き、毎日新聞主催の都市対抗試合には能代3球団の中からオール能代にピックアップされ秋田大会にも数回出場しました。

大学早慶戦はなやかなプロ野球の無い時代です。田代町早口では軟式野球協会双子クラブを作り初代会長になり、北秋田郡代表として秋田に出場したり、大館地区350歳野球にも長年参加しました。

平成4年能代高校が甲子園出場を決めた時は大喜びで、私は大阪まで応援に出掛け1回戦勝った時は感激の涙でした。当時の後援会長さんが自費で選手全員にご馳走したとの話を聞きました。

伝統ある能代高校野球部の皆さん、又秋田県代表として甲子園に出場して下さい。私は今年1月で満90歳になりました。今ユニックール大会に参画しております。以前にはゲートボール会長をやり全国大会（山梨県）、アジア大会（釧路）にも団長として出場しました。早口局長並びに秋田県北部特定郵便局長会会長を務め退職後勲五等瑞宝章を受けました。連合老人クラブ会長もし、現在は小畠勇二郎顕彰会会長をしております。又、県体育協会会長賞、秋田県知事賞等をいただきました。

幸い私は元気でヨーロッパやカナダ旅行に行ってきました。今は同級生山崎五郎氏（国會議員）も早世し、昔を語れる友がほとんど亡くなり寂しいかぎりです。

80周年記念式典には私もぜひ出席したいと思っております。最後に小畠勇二郎先生から私に贈られた色紙の言葉を皆様に贈ります。「おのれの立つ所を深く掘れ、そこに必ず泉あらん」。



五三 大四
期川 廉

四四 伊四
腰期 藤

庄作 廉



第6期（昭和10年卒）野球部

◎昭和11年

- ・全県選抜大会（春、小坂鉱山主催）
決勝 能代中10—9大館中
(全県初優勝)

・秋田県大会

- 1回戦 能代中2—3鷹巣農
(能代中) 柳谷一真崎

◎昭和12年

・第23回秋田県大会 メンバー表

主将	小林 治	左翼	小林 治
監督	村松 四郎	中堅	神馬 一郎
投手	深井 博信	右翼	藤野 嘉久
捕手	桑名 磐	補欠	小林健二郎
一塁	住吉 忠三	"	鈴木 音安
二塁	小山 末藏	"	長谷川全蔵
三塁	五十嵐勇助	"	杉原 茂
遊撃	大和 勇助	"	金谷 忠治

- 1回戦 能代中23—22本荘中
トラブルありノーゲーム

- 再試合 能代中13—11本荘中
(能代中) 深井一桑名

2回戦 角館中に敗れる。この年甲子園へ秋田中が出場したが、以後16年間秋田県から甲子園へ出場できなかった。

◎昭和13年

- 1回戦 能代中6—18秋田中

◎昭和14年

- 1回戦 能代中18—3横手中
(能代中) 鈴木・桑名一金谷
(不明)

◎昭和15年

2回戦 能代中 4—2 秋田商

鈴木一杉原のバッテリーで初めてベスト4、
奥羽大会へ。

・奥羽大会

1回戦 能代中 4—5 五所川原農

五所川原農広島、能中鈴木両投手の好投で
広島15、鈴木14、両軍29の奪三振で気迫の
こもった投手戦を展開、延長11回午後7時
3分終了。

◎昭和16年

戦時体制が深まり、「野球部」が「野球班」と名称がかわった。

甲子園大会が中止…太平洋戦争勃発。

◎昭和17年

・全県大会 能代中 11—4 本荘中

準決勝 能代中 1—7 秋田中

全国大会も開かれたが、主催名が変わり、正式に認められず「幻の大会」となった。

—— 戦争で中断 ——

〈部員〉

○第1期（昭和5年卒）

佐々木正之・高橋芳雄・秋林謹一

○第2期（昭和6年卒）

石山太郎・佐藤圭介・菅原誠一・腰山実政

○第3期（昭和7年卒）

五十嵐貞一・田山周作・小松英夫・泉貞雄・
佐藤憲一郎

○第4期（昭和8年卒）

大川港司・宮腰庄作・瀬川勘一・伊藤廉・石
田春一

○第5期（昭和9年卒）

泉忠夫・渡辺竜夫

○第6期（昭和10年卒）

長谷川喜久男・平賀孝一・渡辺鋼輝

○第7期（昭和11年卒）

相澤東一・石山栄蔵・島田哲一郎

○第8期（昭和12年卒）

碇谷欽一郎・柳谷健六・小林博・渡辺良太郎・

田口俊雄・山王丸栄治・針生貞一・真崎宗彦

○第9期（昭和13年卒）

小林治・村中忠吉・神馬一郎

○第10期（昭和14年卒）

五十嵐勇助・館岡彦直・深井博信・大和勇助

○第11期（昭和15年卒）

藤野嘉久・小林健二郎・住吉忠三・安保高俊・
桑名磋商

○第12期（昭和16年卒）

金谷忠治・今久男・杉原茂・鈴木音安・長谷
川全蔵・原田竹千代・佐藤市雄

○第13期（昭和17年卒）

勝永金一・伊東俊夫・三浦友喜・鎌田茂雄

○第14期（昭和18年卒）

伊藤宣助・平山光吉・藤原仁・石田裕・工藤
勝之

○第15期（昭和19年卒）

佐々木満・稻垣正・鈴木喜雄・播磨谷欣平・
杉本茂・秋元良造

○第16期（昭和20年卒）

熊谷洋三・深井保信

○第17期（昭和21年卒）

平山清六・松浦富士男・梅田恭三

樽子山グランドの思い出

第8期（昭和12年卒） 碇 谷 欽一郎

母校創立80周年のおめでたい年に、懐かしい
松陵会記念史に「ひとつこと」をお願いされましたが
が先ずは、長年にわたる太田会長さんと金谷事務
局長さんにご苦労様でしたと心からお礼を申し上
げます。

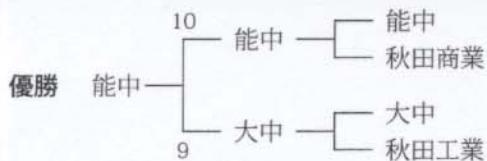
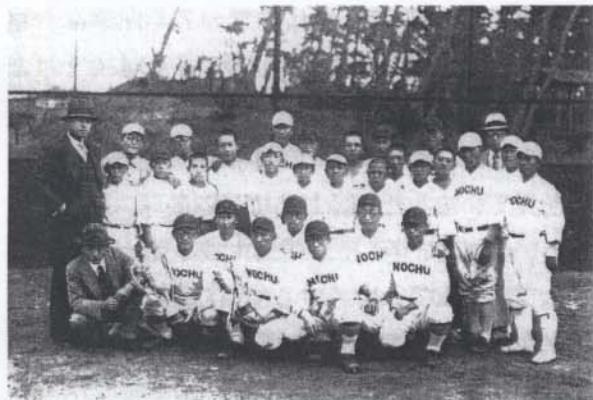
私は、8期の85歳。皆に先立たれて残っている
のが現在福島市在住の柳谷健六さんと2人。元氣
な老齢寄りの思い出話ですので読んでください。

私達8期は、「発揮」と読み替えて元気な野球部
でした。当時は、有名な平川民治監督と副監督が
4期生の伊藤廉氏で、あの樽子山グランドで暗く
なるまで汗を流したものでした。練習中に「まぐれ」
の大ホームランでグランドを越えて下の梨畑まで

飛んだボールを拾い、帰りに梨を1ついただき食べたような平和な時代がありました。また猛練習のあとは、当時の財閥平川監督は、たまには新柳町の料亭で腹一杯のご馳走もしてくれたもので私達には、初めての夜の芸者や舞妓さんなどを見る社会勉強もさせていただいたものでした。

さて当時の県北の野球は、断然強力チームは大館中学であり、私達の「合い言葉」が「打倒大中」되었습니다。そして県北優勝を目指に頑張った時代でした。

ところが昭和11年の春に、我が能中野球部をびっくりさせた「大ニュース」がありました。それは創業の歴史の古い景気のよい「小坂鉱山」の記念行事として、鉱山が主催となり全県選抜野球大会を小坂町で開催され、私達8期の部員6名の大活躍で、なんと見事に全県優勝に輝きました。写真は、嬉しいその記念写真です。準決勝からの記録です。



話は変わって、昭和46年の夏の甲子園大会の思い出ですが、私達の時代、甲子園出場などは手の届かないことでしたが、私は昭和22年県職員に採用され昭和55年退職ですが、昭和45年に時的小畠勇二郎知事は、県外の秋田県事務所は東京都と札幌市にあるが関西ではなく、昭和45年に大阪市で開催された「世界万国博覧会」を機に大阪市に開設することになり私が初代所

長に任命されたので家族皆を連れて5年間の「大阪ぐらし」となりました。昭和46年夏の甲子園大会には「秋田市立高校」(現在は県立中央高校)が登場し、私達の出来なかったことを県人会と一緒に迎え激励会を開いていよいよ開会式の日となりました。テレビでは見ても今日は本物の入場式を拍手で三塁側に陣取りの応援となりました。「入場」。私達には出来なかった堂々たる晴姿。私達の前を行進する「市立高校」を見て嬉しさと感激で、私には涙が止まりませんでした。

最後に能代高校野球部の強力な発展を祈念し今年こそ晴れの甲子園へと頑張ってください。

遠征歌

第9期(昭13卒) 小林 治

「潮騒さゆる北海の 岸のほとりに地をしめてたゆまぬ歩み幾年の 隊容なりて時至る」

平川民治さんは青森球場で甲子園出場をかけた奥羽大会決勝戦の前にフトこの歌を思いかみしめていたと著書『遙かなる』に記され、甲子園出場の壮行の辞に「そして打て勝て奥羽の花能高健男児」とあります。

私は平成3年12月、会長相澤東一さんへの弔辞の末尾に此の遠征歌を読んだのでした。相澤さんの奥様のお話では「病状が悪化してからも私には解らない歌声を聞かせておりましたが今日の弔辞でよく解りました」との事でした。情熱の人相澤東さん、俺が元気な内に甲子園への望みはなりませんでしたが加藤主将が靈前に誓った通り翌年県大会出場で金農を下し甲子園出場となりました。

8月14日甲子園の能高大応援団のなかに相澤東さんの愛娘朝子さんの胸に抱かれた遺影が平川民治さん、佐藤憲一郎さんの遺影と共にありました。

試合は9回裏最後の打球がライトの柳谷君のグローブに納まった瞬間勝利の大歓声の渦につづまれ私は「勝った、勝ちました相澤さん、校歌を聞いて下さい」と叫んだのでした。